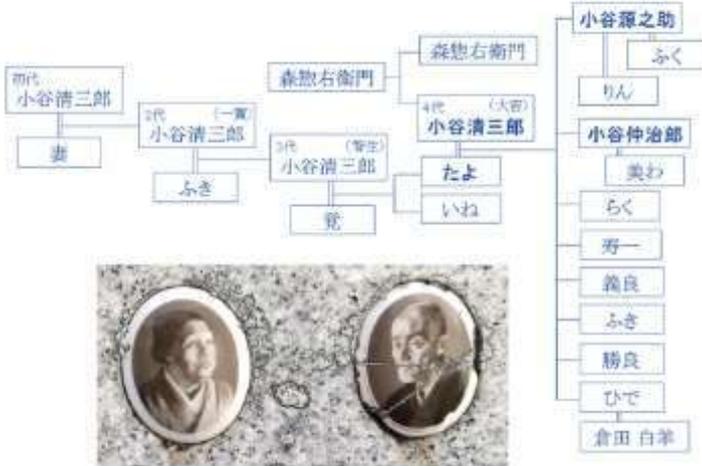


## 金澤屋 小谷家家系図



金澤屋の墓に付けられた清三郎・たよの顔写真

**小谷清三郎** (1845-1910) は、根本村 (南房総市白浜町) の海産物問屋金澤屋の長女・**小谷たよ** (1849-1927) の婚養子である。本名は大吉であったが、4代目清三郎を襲名した。村議員や小学校の学務委員などの要職を歴任している。乾鮑製造の技術にすぐれ、1883 (明治16) 年の第1回水産博覧会で褒賞を受賞している。

清三郎の実家の森家は、江戸期から続く根本村の名主で、明治期には村政や漁業のリーダー的役割を担っていた。1871 (明治11) 年に、一族の森精吉郎や森惣右衛門 (清三郎の兄) らが増田万吉 (器械式潜水業の先駆者) を横浜から招き、器械式潜水用具によるアワビ漁法の実証試験をおこない、国内初となる成果を上げた。根本村から始まった器械アワビ漁は、たちまち全国に広がった。

**小谷源之助** (1867-1930) は、根本尋常小学校卒業後、慶応義塾幼稚舎で3年間、慶応義塾の商法学校で2年間学んだ。さらに東京学館で商業簿記学を学び、家業の金澤屋を手伝った。乾鮑製造に高い評価のあった父清三郎とともに清国貿易に関わりながら、新潟佐渡や秋田能代など全国に生産拠点を展開していった。

米国カリフォルニア州モンレー湾の豊富なアワビに注目した野田音三郎らが、農商務省を通じて専門家の渡米を依頼したとされ、アワビ事業に実績のあった小谷源之助・仲治郎兄弟が選ばれた。

1897 (明治30) 年、源之助 (30歳) は先発で単身渡米し、モンレー湾域での状況調査と仲間たちの受け入れ準備にとりかかった。遅れて到着した仲治郎と男海士らとともに、アワビ漁を操業した。当初は素潜り漁法だったが、寒流で海水温が低いため、器械式潜水漁法に変更した。

在米日本人の移民排斥という機運が高まる中で、1902 (明治35) 年、源之助・仲治郎は、投資家であり大地主の米国人A.M.アレンと共同で、アワビ缶詰を製造するポイントロボス缶詰会社を設立した。

源之助はモンレー日本人会会長を務めるとともに、日本からやって来る文人墨客のためのゲストハウスを建て、日米親善に寄与した。

**小谷仲治郎** (1872-1943) は、根本尋常小学校卒業後、16歳で上京し佐野英語学校に1年間学んだ。1890 (明治23) 年に水産伝習所の予科に入学し、さらに本科第3回生に進んだ。金澤屋の仕事を手伝いながら、水産の専門知識・技術を高めた。七浦村千田 (南房総市千倉町) の平野家の婚養子となったが、後に小谷姓に戻っている。

兄の渡米から3か月後、仲治郎 (25歳) は、3人の男海士とともに渡米した。源之助やA.M.アレンとともに缶詰会社を創立して販路を開拓し、アワビ缶詰やアワビステークが評判となった。

米国に10年滞居の後、1906 (明治39) 年に帰国して千田に住み、器械潜水夫の養成と渡米を支援し、源之助のもとに送り込んだ。また、千田漁業組合長や安房水産会長、七浦尋常小学校学務委員などの要職を歴任した。

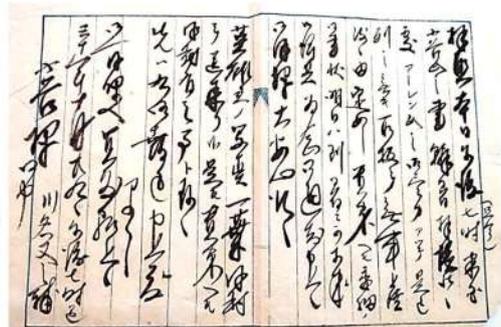
## 共同経営者アレンと小谷ファミリー

1904年、源之助は、日本から後妻のふくと長男英雄 (1歳) をモンレーに呼び寄せた。この書簡には、アレンの尽力により、前例がない取扱いを受け、無事に渡米できたことが書かれている。日本人移民の排斥が高まっているなかで、アレンが小谷兄弟をよくサポートしていたことが分かる。

差出人の川名又之輔は、金澤屋と親しい関係者で、書簡も多い。アレンとも面識があり、小谷ファミリーを日本から支援していたと思われる。

【書簡 (A-35)】 1904年10月29日

川名又之輔より小谷宛



小谷源之助ファミリー  
中央の少年が有仁  
後ろが母ふく  
右の男性が英雄  
左から2番目が省三



A.M.アレン

拝啓 本日午後七時只今米國  
小谷氏之書翰着、拝読仕候  
処、アレン氏之御尽力アツテ是迄  
列例之無キ取扱ニテ無事上陸  
致候由、定めし貴家へも委細ノ  
御書状明日ハ到着ニ可相成  
候得共、為念御通知申上候、  
御同様大安仕候、  
英雄君ノ写真一葉同封  
ニテ送來り候、是も貴家へモ  
同封有之事と存候、  
先ハ右御報迄申上度、  
御一同様へ宜敷願上候、  
三十七年十月二十九日 午後七時過  
小谷様御中 早々  
川名又之輔

◆ コロナ禍を乗り越えて

スタディツアーガイドを再開！

横浜市荏田南中学 2年 215 名が、コロナ禍の延期を経て、待望の館山平和学習を実現！

5/17 に座学、5/18 はスタッフ総勢 18 名で赤山地下壕+掩体壕の見学をガイドしました。6 月には、同校の 1 年生 200 名が来訪します。



※当面のツアーガイドスケジュール

- 6 月 5 日 (日) AM 赤山地下壕ガイドサービス
- 6 月 8 日 (水) AM 生涯大学校南房学園 講義
- 6 月 26-27 日 (日月) 夕方/AM JR 東労組文芸部 10 名
- 6 月 27-28 日 (月火) 夕方/AM 横浜市荏田南中学 1 年 200 名
- 7 月 3 日 (日) AM 赤山地下壕ガイドサービス
- 7 月 28 日 (木) AM 生活クラブ 20 名
- 8 月 4 日 (木) AM // 20 名

※ サポートスタッフも募集中！詳しくは事務局までお問合せ下さい。

旧安房南高校 木造校舎 草刈り・掃除

【安房高等女学校木造校舎を愛する会】

引き続き当 NPO が事務局を担い、木造校舎の管理支援や秋の一般公開(見学会)をおこないます。ぜひご協力をお願いします。

6月18日(土) 9:00~10:30

※雨天時は翌19日(日)に順延 (館山市北条 611)

かにた婦人の村 草刈り

連携を図っている婦人保護施設の環境整備にご協力をお願いします。

6月1日(水) 8:30~12:00 頃

※雨天時は翌2日(木)に順延

<参加は要事前連絡>

青木繁「海の幸」記念館 見学再開

開館:土・日曜日 10~16 時(冬季は 15 時まで)

維持協力金(入館料):一般 300 円、小中高 150 円  
(館山市布良 1256 TEL:0470-28-5063)

【青木繁「海の幸」記念館を保存する会】

新年度より組織名と体制が変わり、当NPOは事務局の受託を終了しましたが、引き続き連携していきますので、変わらず温かいご支援をよろしくお願いたします。

橋本芳久さん写真展

5月19日(木) ~ 6月13日(月)

11~16 時(火水休館・最終日は 15 時)

会場:ギャラリー Sfk

(南房総市下滝田 125-3 TEL:0470-36-3052)

ライカを片手に世界中を巡り、シャッターを切り続けた美しい自然や街並、歴史・文化をお楽しみ下さい。御齡 91 歳の NPO 重鎮。

【訃報】

長きにわたり多大な貢献をされたお二方が永眠されました。ご生前のご活躍に感謝を捧げ、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



\* 小谷 栄さん … 青木繁「海の幸」ゆかりの小谷家住宅の先代当主。美術振興と地域活性化のためにご自宅を館山市指定文化財とし、青木繁「海の幸」記念館の開館に導いた功労者。

\* 船田正廣さん … 信州上田生まれの彫刻家。東京芸術大学卒業、安房高校・安房南高校・安房西高校の美術教育に尽力。青木繁をオマージュした塑像『刻画・海の幸』を制作、館山の青木繁記念館はじめ九州久留米の青木繁旧居、韓国のソウル・光州・靈巖の美術館に、河正雄コレクションとしてブロンズを設置。旧安房南高校の女生徒像ブロンズをウガンダの支援先に寄贈。

